

令和7年度 静岡県立袋井特別支援学校 第2回 学校運営協議会 議事録

1 日時 令和7年 10 月 22 日(水) 9:30～11:30

2 会場 静岡県立袋井特別支援学校 会議室

3 参加者 計 17 人

竹野 昇	(会長)
早川 俊之	(副会長)
鈴木 雅宏	(地域コーディネーター)
山本 洋子	(委員)
川端奈津子	(委員)
柴田 七重	(委員)
石黒 加奈	(委員)

学校(校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、教務課長、支援連携課長、コミュニティスクール・コーディネーター)

4 内容

(1) 校長挨拶

- ・前期の児童生徒の活動の様子(宿泊学習、修学旅行、光る子まつりに向けて等)
- ・教職員の様子(授業、研究等)
- ・本日の学校運営協議会議題について

(2) 会長挨拶

- ・本日の学校運営協議会の協議について

(3) 報告事項

①学校経営の進捗状況(学校から)

- ・前期の学習の様子を、写真を示しながら報告
- ・教育活動中間報告について、資料をもとに報告
- ・教育活動への提言

<学校間交流について>

委員:学校間交流は、お互いの発表を見合うのではなく、一緒に交わることが大事になる。

交流が増えると、理解も深まる。特に、中学生は多感な時期なので、中学校での実施も大事だと思う。

委員:地域の小学生や中学生が、自然と特別支援学校の子どもたちと交流することで学ぶことは大きい。お互い学ぶところがある。また、交流することで、地域の子どもや保護者の視点も変わっていく。

委員:学校間交流当日に向けて、どのように相手校と共通理解を図っているか。

学校:学校間交流を行う前に、本校の教員が交流先の学校に出向き、相手校の子どもたちに本校の子どもたちの様子や関わり方などを伝えている。実際には、本当に自然に関わってくれる子どもたちが多いため、今後は、交流校の先生に向けて何かできるとよいと考えている。

委員:学校間交流をしていない学校と交流することはできないか。

学校:学校間交流は、校区で交流を行っている。他にも、交流籍を活用した交流および共同学習を行っている。本校は、いろいろな地域から子ども達が通ってきているため、それぞれ住んでいる地域の学校に交流籍というものをもっている。住んでいる地域の学校に行く交流も行っているため、その交流籍の交流がもっと増えるとよい。

委員:交流籍交流もよいが、一人で行くと不安なこともあるので、全体での交流会があるとよい。

<修学旅行について>

委員:移動方法はどのように行っているのか。

学校:現地の移動は、福祉タクシーを利用している。また、新幹線は、個室があり車いす対応の11号車を予約している。

委員:新幹線の入り口から車いすは入れるのか。

学校:入れる。駅員も手伝ってくれる。

委員:障害者差別解消法が施行されたが、配慮の部分では実際には配慮されているか。

学校:名古屋は、地域性もあるのかバリアフリーが少なかったが、今回の修学旅行では、旅行会社との計画に前年度から組み込み、対応してもらった。

委員:旅行会社は、そういう意識があって当然やっているのか、単なる商売的にやっているのか。きぼう館やコミュニティセンターもその対象になってくる。今、世の中としてどうなっているのか。

学校:世の中全体で言うと、昭和の頃に比べると格段の差がある。車いすを押していると視線を感じていたが、視線の感じ方が変わっている。

委員:世の中の理解が進んでいるということは、全国各地で障害教育がたくさん進んでいるため。しかし、新幹線はまだ小さい子には不親切な部分もある。もっと障害者や子育て支援が良くなるとよい。

＜キャリアパスポートについて＞

委員:字が書けなかったり、理解が難しかったりするときは、どのように対応しているか。

学校:キャリアパスポートは、生徒達と対話などのやり取りを通して一緒に作っている。児童生徒に応じて、イラストなども使っている。

学校:小学部は今年度から始まったため、模索しながら作成している。子どもたちが教員とやり取りしながら作り、自分が頑張ったものを綴じ、1年間振りかえられるものになっている。

委員:自己肯定感が上がる取り組みでよい。

＜ヒヤリハットについて＞

委員:校内事故とヒヤリハットの基準について教えてほしい。

学校:校内事故は、救急搬送する怪我とし、ヒヤッとした怪我や事例はヒヤリハットとしている。

＜生成AIを活用した教育について＞

委員:生成AIを使うにあたって保護者に不同意書を取ると、不同意の子どもがいた場合、授業がやりにくくなるのではないか。

学校:学校が、保護者に対して不同意書の説明をするときの説明の仕方に大きく関わってくる。また、保護者の同意を必要としない生成AIもある。使うにあたっては、県に申請が必要なものと必要ないものに分かれてもいる。予測困難な時代と言われている中、子どもたちが、これからどんな場面で生成AIを使っていくかを教員で話し合っている。

委員:特別支援教育に特化した生成AIはあるか。

学校:以前新聞にも出ていたが、特別支援学校での使用について、研究はしている。

委員:不同意で提出する保護者がいた場合、どんな不同意の理由が考えられるか。

学校:生成AIは全てが正しいとは限らないため、子どもが素直に受け止めてしまうことを心配するのではないか。今後、図書情報課長と不同意について詰めていきたい。

<引継ぎについて>

委員:12年間で担任の先生も変わるが、引継ぎはどのようにしているか。

学校:新入生では、保護者に了承を得て入学前の園や学校から情報を聞いたり、保護者に聞いたりしている。1年間できるようになったことなどを資料にまとめて、新年度に引き継いでいる。また、年度始めに、情報を共有する引継ぎの時間も設け、スムーズに子どもたちへの支援を新年度スタートできるようにしている。

学校:小学部1年生から個別の教育支援計画を作り、その子の情報を積み重ねている。実際には幼児の段階から作っていて、幼児から小学部に引き継がれ、次は本校で12年間積み上げ、さらに次の就労先に引き継いでいくという形で積み上げている。

(4) 協議事項(司会:会長)

「地域や社会とつながり合う授業や教育活動の実践」

① 進捗状況報告・今後の予定

- ・前期の各学部の資源活用の様子を、学習の写真を提示しながら報告
- ・質疑応答、意見等

委員:昨年度よりも利用が増えて倍ぐらい忙しかった。子どもたちの笑顔が増え、展示する作品もどんどん質が上がっている。

委員:だんだん地域に密着している感じが強くなっている。安心していい場所ということが子ども達たちも分かっている。

委員:以前は、作業製品の注文販売があったので、またできたら声を掛けていただきたい。

委員:作品などの表現活動は、障害の有無に関係なく評価されるもの。このような活動が地域の柱になっていくとよい。

委員:地域の方も一生懸命考えて下さってありがたいと思う。やはり袋井とこの辺りは本当に温かい。地区の皆さんにとっても受け入れていただき、一緒に楽しくやっている。市内全部になるとよい。磐田の方にもこのような活動がもっていけたらよい。

委員:自治会連合だよりを月1回作成している。学校の子どもたちが地域で活動する際には、事前に教えてもらえば連合だよりで伝えることができる。ぜひ、もっと大勢の方に学校の子どもたちが地域で学習している様子を見てほしい。

委員:学校の生徒も通る歩道が狭いため、広げるようにさらに要望をしている。

委員:きぼう館の清掃以外にも、この地区には3つの福祉施設があるため、高齢者と交流したり、清掃活動をしたりできるのでは。高齢者にとっても、よいと思う。将来の就職先を考えて、施設で仕事をするなどやれることがある。ボランティアの受け入れを閉ざしているところもある。学校側から理事長に伝えてもらい、学校と福祉施設との交流も検討していくとよい。

<防犯カメラについて>

委員:学校の周りなどにある防犯カメラは連合会で付けてくれたかどうか。データはどこで管理しているのか。

委員:パソコンをその場に持って行き確認できる。高南地区にカメラは4か所ついている。防犯カメラの看板はあちこちに付けている。抑止力になっており、カメラを付ける前と比べると痴漢がなくなっているように感じている。今のところ痴漢の報告がないため、効果はあると思う。

委員:自治会でも付けることができるのですね。

委員:市で補助金が貰えるが、維持費が高い。付けているカメラは、レンタルのため、壊れなくてよい。今後また新しいものが出てきたら考えなくてはならない。

②「光る子まつり」について

- ・光る子まつりの日程や主な活動内容の説明。

委員:NSKの駐車場も空いているので、光る子まつりの駐車場に使うことができる。

委員:まつりは誰でも入ることができるのか。

学校:受付でネックストラップを受け取れば誰でも入場できる。

③「地域販売会」について

- ・中高販売会の日程や会場の説明

委員:畑にりっぱなナスができています。農作物を自分たちで作って、地域で販売して収入になる。生きる喜びにもなる。

5 校長挨拶

- ・来年度の第2回学校運営協議会について(小中学校との合同開催の方向性)
- ・本日のお礼

